

中高生の美術ゼミ
Art
Seminar



講義録

第I期 2025年度

中高生の美術ゼミ—このはじまりについて

2025年度から「中高生の美術ゼミ」は、スタートしました。そのきっかけは、美術館で開催するワークショップは、小学生以下を対象にしたものが多く、中学生以上が参加できる講座であっても実際の参加者は大人ばかりという状況を鑑みてのことです。「需要があるかはわからないけれど、中学生、高校生を対象にした美術講座をしたい」と思いました。中学生、高校生はそれぞれ部活や受験もあり、忙しい毎日過ごしていることはわかっていたのですが、その生活の中で、非日常を味わうことの意義は確信していました。同世代の仲間たちと様々なプロフェッショナルたちの話を聞く時間を過ごすことは、少なからず個々の人生において何かしらのインパクトを与えてくれるはずであると。

素晴らしい講師陣は、学芸員、アーティスト、ギャラリスト、美術批評家、ジャーナリストなど多岐にわたりました。というのも、「美術」というのはアーティストだけでも、またもちろん美術館だけでも成立しているわけではないからです。様々な立ち位置の人々が多方向から関わることで、現代の「美術」とそれを取り巻く世界を作っています。その世界を覗き見ることで、将来の職業につながるイメージを抱いたゼミ生もいれば、制作の楽しさを再確認したゼミ生もいて、それぞれの感想が聞かれました。このゼミの発案者としては、大人になることも悪くないと思ってもらったり、仕事をするための苦勞や楽しみ、制作することが人生そのものであったりなど、講師陣がさりげなく伝える大変な努力と「好き」から生まれる本気と熱中を知ってもらえれば、大成功だと思っています。

定員30名のところ25名の申し込みがあり、初回のゼミとしては、なかなかの滑り出しでした。練馬区内の生徒だけでなく、東京都外からそれなりの遠距離を一生懸命通ってくれる生徒もいて、二度とない機会を逃がすまいとでもいうような真剣さに感心しました。全10回にわたるゼミに休むことなく出席したのは、2名の生徒たち。彼女たちには、アーティストの大小島真木さんによる修了書を授与しました。またとない記念になったと思います。

来年度以降も、続いていくであろうこのゼミは、恐らく練馬区立美術館の名物事業となるでしょう。広報し始めた当初も、他の美術館の方からこのゼミに関する多くの問い合わせを頂きました。それだけ、美術館の教育普及において中高生に対するケアが必要とされているということだと感じました。このゼミを通して「美術」の世界で活躍する人材が輩出されたらこの上ない喜びではありますが、何より、「美術」を身近に感じ、「美術」を通して考える大人が増えていくことに繋がれば、ちょっとした社会的インパクトになるのではないかと企んでいます。

最後に、参加してくれたゼミ生たちに感謝を伝えると同時に、皆さんの将来を楽しみに再会を心待ちにしたいと思います。

小野寛子

・ 中高生の美術ゼミ—このはじまりについて ……003

1 第1回：2025年6月14日Ⓢ
「美術館学芸員の仕事」 ……006
池田美美 | サントリー美術館副学芸部長 + 小野寛子 | 練馬区立美術館学芸係長

2 第2回：2025年7月26日Ⓢ
「陶芸家の仕事」 ……026
高橋奈己 | 陶芸家

3 第3回：2025年8月9日Ⓢ
「ギャラリーの仕事」 ……034
小山登美夫 | 小山登美夫ギャラリー代表

4 第4回：2025年8月23日Ⓢ
「体から、はみ出すということ」 ……050
若羽幸平 | 舞踏家

5 第5回：2025年9月23日ⓈⓄ
「パブリックアートについて考えよう」 ……060
椎原伸博 | 美学者・実践女子大学教授

6 第6回：2025年10月4日Ⓢ
「アートを見る・聞く・伝える」 ……070
永田晶子 | 美術ジャーナリスト

7 第7回：2025年11月1日Ⓢ
「美術家の仕事」 ……086
小沢剛 | 美術作家

8 第8回：2025年12月13日Ⓢ
「美術を見る、書く、考える」 ……100
榎木野衣 | 美術評論家・多摩美術大学教授

9 中高生の美術ゼミ | 第9回：2025年12月27日Ⓢ
「日本と世界をつなぐ—美術の国際交流」 ……110
伊東正伸 | 練馬区立美術館館長

10 第10回：2026年1月17日Ⓢ
「デザインで何ができる？」 ……130
菊地敦己 | アートディレクター・グラフィックデザイナー

・ 修了式 ……140

・ 講師プロフィール ……142